

令和4年度
新しいライフスタイル、新しい働き方を踏まえた
男女共同参画推進に関する調査
報告書のポイント

調査概要

1. 調査目的

これまで女性に対する施策は多数行われているが、更なる女性活躍を目指すためには、男性の変革が必要である。例えば、女性が様々なライフステージで仕事を継続できる環境は整ってきたが、男性の長時間労働の慣行は十分に改善されておらず、このことが、男性の家事参画が進まない要因、女性に家事負担が集中する要因となっている。家族の姿が変化し、共働き世帯が増加している中、従来通りの家事・育児に加え、仕事での活躍も求められ、女性の負担は増加している。このことは、コロナ下で改めて顕在化した。

一方、コロナ下での生活も3年となり、働き方、ライフスタイルが変わってきている。特に若い世代と中高年との間では、両者に対する考え方も大きく異なっている可能性があり、今後の男女共同参画を推進する上では、確認しておく必要がある。

さらに、コロナ下では、中高年男性の孤独・孤立が注目されることになったが、これは、現役時代に仕事以外の繋がりを持てなかったこと、性別役割分業の副産物であることが指摘されている。

本調査は、前述の問題意識を念頭に、コロナを経験した上でのライフスタイルにおける意識の変化、ライフスタイル、働き方に対する理想と実態について、男女別、年代別、配偶関係別等で確認し、今後の男女共同参画推進に向けた材料とする。

2. 調査検討委員会

本調査の実施に当たっては、有識者からなる検討委員会を設置し、開催した。

① 構成

氏名	所属
<主査> 稲葉 昭英	慶應義塾大学 文学部 教授
永瀬 伸子	お茶の水女子大学 基幹研究院 教授
永井 暁子	日本女子大学 人間社会学部 社会福祉学科 准教授

3. 調査方法・調査対象

調査方法	インターネット・モニターに対するアンケート調査 (株式会社マーケティング・アプリケーションズの登録モニターが対象)
調査名	あなた自身に関する調査
調査対象	国内在住のインターネット・モニター(20歳以上70歳未満)

4. 調査期間

インターネット・モニター に対するアンケート調査	令和4年12月23日(金)～令和5年1月6日(金)
-----------------------------	---------------------------

調査結果のポイント

◆“働くこと”に対する考え方と仕事において必要なもの

1 働くことに対する考え方について、男女とも「雇用の安定性を重視」が高い。また、女性では「残業・負荷の少なさ」など、仕事以外の時間確保も高く、特に有配偶・子供有りで顕著。

2 働くことに対する考え方について、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるか」が高い。一方、上の年代ほど「会社・社会の役に立つか」が高く、世代による差が見られた。

3 仕事において必要なものについて、男女とも「スキルアップ」は正規雇用労働者で4割強、非正規雇用労働者では27%。「リスキリング」は雇用形態にかかわらず10~15%程度。

- 働くことに対する考え方では、男女ともに「雇用の安定性を重視して働きたい」が最も高い。男女別にみると、女性は「残業が少ないことを優先」「負荷の少ないことを優先」が高く、男性は「専門性を磨けるように」等が高い。
- 年代別では、男女ともに若い年代ほど「新しいことに挑戦できるかを優先して働きたい」が高く、年代が上がるほど「会社・社会の役に立つように働きたい」が高い傾向がある。
- 仕事において必要なことについて、「スキルアップ」は、女性正規雇用労働者で43.2%、男性正規雇用労働者で46.8%。一方、女性非正規雇用労働者では26.9%、男性非正規雇用労働者では26.5%。「リスキリング」は、男女とも正規雇用労働者で15%、非正規雇用労働者で13%程度。

・有職者の「働くことに対する考え方」 (当てはまる+どちらかといえば当てはまるの累計値)

※選択肢は抜粋
※10%ポイント程度差がある(高い)項目に色掛け

	女性	男性
雇用の安定性を重視して働きたい	84.9%	79.5%
残業が少ないことを優先して働きたい	80.8%	70.0%
負荷の少ないことを優先して働きたい	83.3%	74.3%
専門性を磨けるように働きたい	59.6%	71.0%

◆現在の雇用形態で働く理由と、非正規雇用労働者が「正規雇用で働くための条件」

1 男女とも正規雇用の理由は「十分な収入 & 安定」。男性非正規雇用労働者は「その形でしか雇用されない」が高い。女性非正規雇用労働者は「家事・育児と両立しやすい」が高く、有配偶で顕著。

2 女性20-39歳非正規雇用労働者(有配偶)の、正規雇用で働く条件TOP3は、「働く時間を調整しやすい」「育児等の両立に理解がある」「自分の家事・育児等の負担が軽くなる」こと。

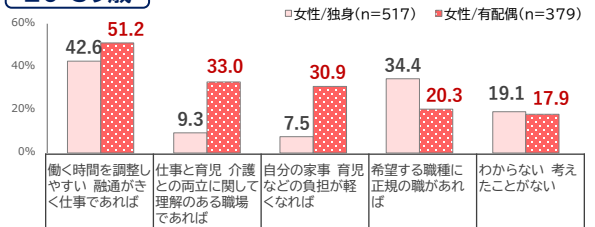
3 女性40-69歳非正規雇用労働者(有配偶)の、正規雇用で働く条件は、「働く時間を調整しやすい」ことが最も高いが、次に「わからない・考えたことがない」が挙がる。

- 現在の雇用形態で働く理由について、正規雇用労働者で男女ともに最も高い項目は「十分な収入を得たいので」で6割強、次に「安定して働きたいので」が続く。
- 非正規雇用労働者について見てみると、女性では「家事・育児等と両立しやすいので」30.0%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」29.8%が高く、男性では「その形でしか雇用されないの」32.0%が最も高い。
- 現在の雇用形態で働く理由(女性)について、配偶状況別に見てみると、非正規雇用労働者において、独身では「仕事の内容で負荷がかからないので」24.6%、「その形でしか雇用されないの」24.3%が高く、有配偶では「家事・育児等と両立しやすいので」42.2%、「自分で自由に使えるお金が欲しいので」34.3%が高い。また、「社会保険料や配偶者控除などを考えて」「自分で自由に使えるお金が欲しいので」「家事・育児等と両立しやすいので」は、有配偶の方が10%ポイント以上高い。

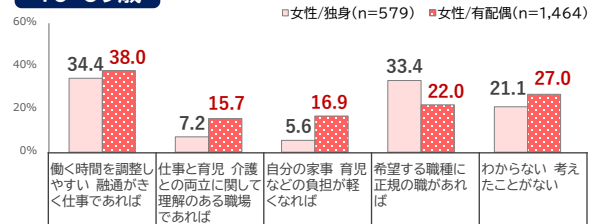
＜女性非正規雇用労働者が正規雇用で働く条件＞

※選択肢は抜粋

20-39歳



40-69歳



調査結果のポイント

◆長時間労働と働く時間を減らしにくい理由

- 1 男性20代～40代では、**有職者の約1/3が「フルタイム/残業月25時間以上」**。また「**有配偶**」の方がフルタイム・長時間労働の割合が高い。
- 2 男性の「長時間労働」におけるプラスの影響は、40代以上における「**昇進・昇給による影響**」のみ。**ワーク・ライフ・バランス**や**家事・育児時間確保等マイナスの影響**は複数挙がる。
- 3 男性が勤務時間を減らしにくい理由TOP2は「**仕事量**」「**人手不足**」。若い層の方が「**残業を評価する風潮**」「**周囲が仕事を優先すべきと考えている**」などが高い。

- 男性の残業月25時間以上の割合は右記表のとおりであり、どの年代でも「有配偶」の方が残業月25時間以上の割合が高い。
- 勤務時間が与える影響について、男性の「長時間労働(残業月46時間以上)」と「残業月24時間以下」で比較すると、20-39歳では長時間労働の方が10%ポイント以上高い項目はなかったが、40-69歳では「昇進・昇給による影響を与える」のみが高い。一方、どちらの年代でも「趣味等の時間」「家事・育児等の時間」「家族とのコミュニケーションの時間」「ワーク・ライフ・バランスを保つことができる」かについて、「長時間労働」の方が10%ポイント以上低い。
- 「長時間労働」「残業月25-45時間」において勤務時間を減らしにくい理由は、年代に関係なく「仕事量が多く仕事・業務が終わらない」「職場の人手不足」が高い。一方、「長時間労働」では、20-39歳でのみ「残業する人を評価する風潮がある」32.7%、「職場や上司の理解がない」30.5%と3割を超える。また、「周囲が家族より仕事を優先すべきと考えている」は40-69歳と比べ10%ポイント程度高い。

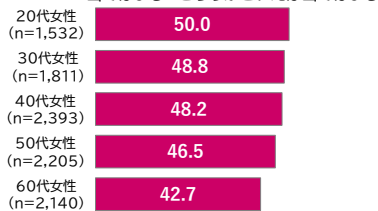
対象者区分	フルタイム			
	①残業月46時間以上(長時間労働)	②残業月25-45時間	①+②(残業月25時間以上)	
男性・独身	20代	14.1%	16.3%	30.4%
	30代	12.5%	12.0%	24.6%
	40代	11.6%	14.2%	25.8%
	50代	11.1%	8.8%	19.9%
	60代	6.7%	3.2%	9.9%
男性・有配偶	20代	24.3%	19.6%	43.9%
	30代	23.6%	21.9%	45.5%
	40代	21.6%	18.5%	40.1%
	50代	16.1%	15.8%	31.9%
	60代	6.4%	6.4%	12.9%

◆「仕事での昇進」 20代時点での考え方

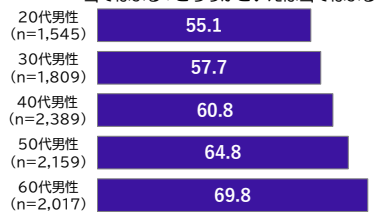
- 1 女性では、「長く続ける」「昇進できる」「いずれは管理職」、いずれも**若い年代ほど割合が高い**。特に「**昇進できる**」「**いずれは管理職**」で年代による差が大きく、**意識の変化が窺える**。
- 2 男性では、「昇進できる」「いずれは管理職」については、**年代による大きな差は見られない**。一方「**長く続けたい**」は若い年代ほど低く、「**一つの会社で勤め上げる**」**意識の変化が関係か**。
- 3 **初職が正規雇用か非正規雇用かによって、「昇進できる」「いずれは管理職」の割合は異なるが、初職が正規雇用の方が男女差が大きい**。

【この仕事を長く続けたいと思っている・いた】

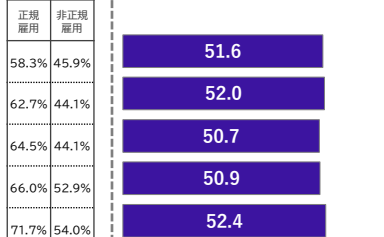
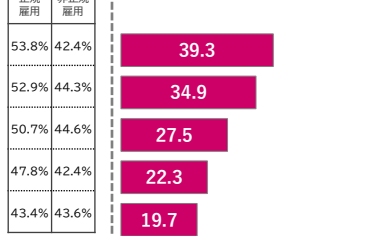
■当てはまる+どちらかといえば当てはまる



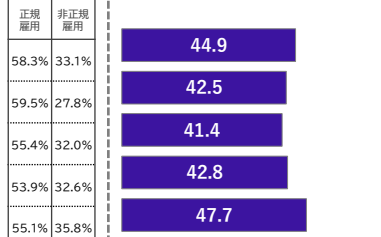
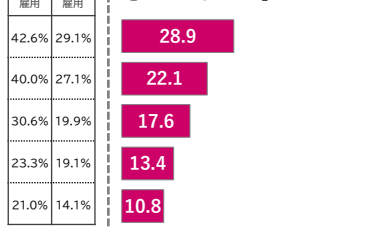
■当てはまる+どちらかといえば当てはまる



【昇進できると思っている・いた】



【いずれは管理職につきたいと思っている・いた】

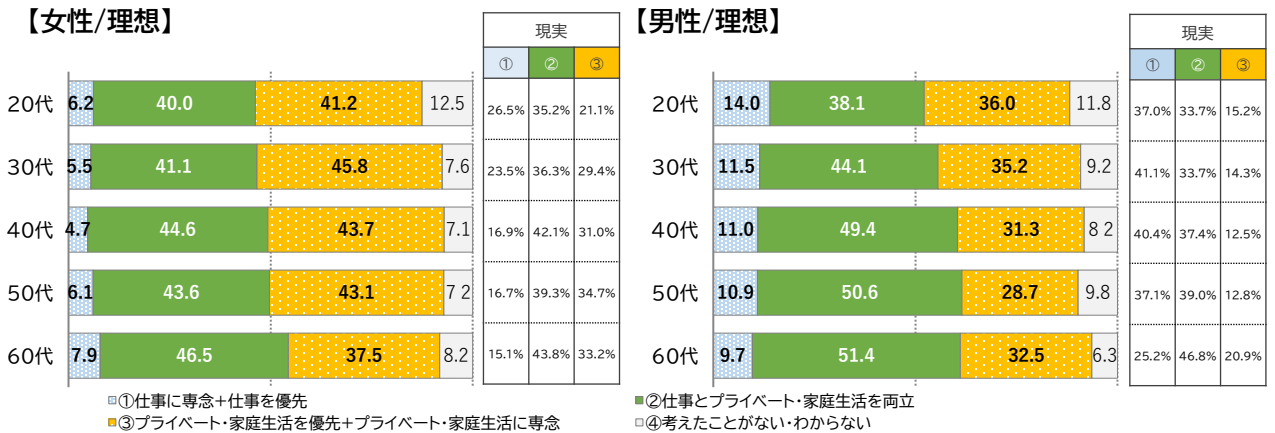


調査結果のポイント

◆仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(有職者対象)

- 1 男女ともに、理想では「両立」志向がいずれの年代でも4～5割を占める。また、「仕事に専念+優先」は男性でも1割程度で、どの年代でも高くない。
- 2 30～50代では、女性の方が「プライベート・家庭生活を優先+専念」を理想とする割合が高いが、20代では男女差は小さい。
- 3 現実では理想と比べ、「仕事に専念+優先」の割合が高く、特に男性で顕著。どの年代でも男性の方が「仕事に専念+優先」の割合が高いが、20代では上の年代と比べて男女差は小さい。

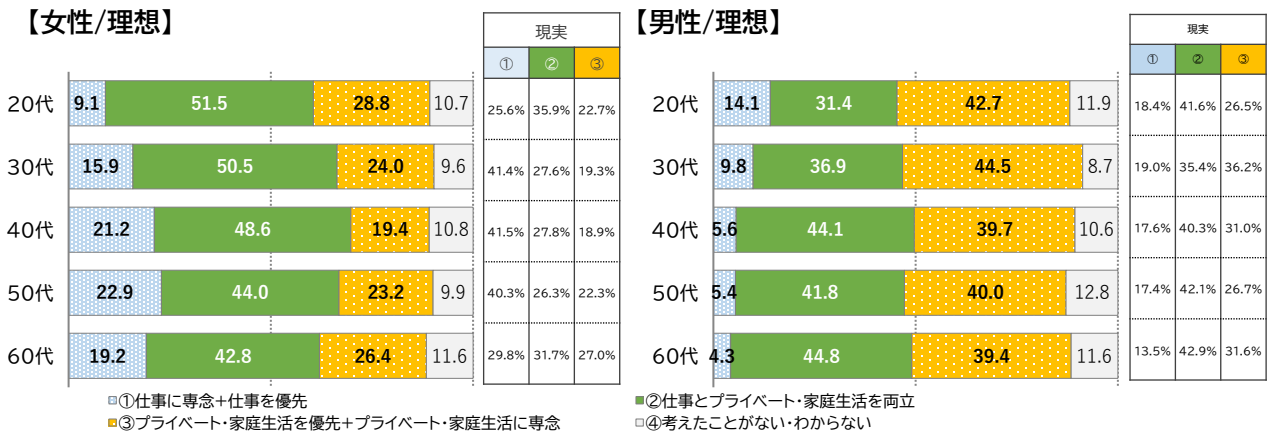
・有職者における仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実



◆配偶者の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実(配偶者が有職者)

- 1 理想では男女ともに配偶者に「両立」を望む傾向が高く、女性は4～5割、男性は3～4割。なお、男性では「プライベート・家庭生活を優先+専念」も高く、全ての年代で約4割程度となっている。
- 2 現実に女性が配偶者を見ると、20代と60代では「両立」が最も高いが、30～50代では「仕事に専念+優先」が4割強と最も高い。
- 3 男女で比較すると、理想においては女性の方が配偶者に対して「両立」を望む傾向があり、男性は配偶者に対して「プライベート・家庭生活を優先+専念」を望む傾向がある。

・配偶者(有職者)の仕事とプライベート・家庭生活のバランス 理想と現実



調査結果のポイント

◆育児休業取得(子供が0～3歳の頃)の希望

- 1 女性では、「半年以上取得したい」が20～30代で5割程度、40代で4割、50～60代で3割。(40代以上では「覚えていない・希望がなかった」が4～5割と高い。)
- 2 男性では、どの年代でも「半年以上取得したい」は1割程度。若い年代ほど、取得希望期間は長くなる傾向がある。
- 3 取得希望の期間については、女性では全ての年代で「半年以上」が最も高い。一方、男性では、全ての年代で「数日間」または「1か月程度」が最も高く、差が大きい。

育児休業取得の希望		育児休業取得の希望期間				
		半年以上	4-5か月 (半年未満)	2-3か月	1か月程度	数日間
20代	女性	54.2%	6.4%	7.9%	3.4%	4.8%
	男性	10.5%	5.4%	14.5%	22.1%	17.6%
30代	女性	49.1%	5.2%	4.6%	3.5%	4.5%
	男性	9.9%	3.4%	11.1%	19.1%	19.8%
40代	女性	37.4%	4.2%	4.2%	3.0%	2.5%
	男性	8.5%	2.1%	7.1%	14.3%	17.7%
50代	女性	28.0%	3.4%	4.7%	2.8%	1.8%
	男性	6.0%	1.7%	6.9%	10.4%	12.4%
60代	女性	28.1%	4.0%	5.8%	3.0%	1.5%
	男性	6.3%	1.6%	6.2%	9.4%	11.5%

※子供がいる・子供を持ったことがある人、もしくは子供を持ちたい人(妊娠中も含む)が対象
※各区分で最も高い取得希望期間に色掛け

◆育児休業取得の影響・考え方と、男性の育児休業取得率が女性に比べて低い理由

- 1 育児休業取得への考え方・影響について、「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」「復帰後に自分のポジションがない」等で女性の方が高く、男女差が大きい。
- 2 男性の育児休業取得率が低い理由について、20-39歳の男女で高い項目は、「男性の方が家計を支える必要がある」「男性の方が昇進にマイナスの影響がある」「男性の方が周囲の支援を受けにくい」。
- 3 男性の育児休業取得率が低い理由について男女差が大きい項目は、「女性の方が給与が低い場合が多い」であり、20～39歳においては女性の方が10%ポイント高い。

※選択肢は抜粋
※男女差が10%ポイント以上ある(高い)項目に色掛け

- 育児休業取得への考え方・影響について、「そう思う+どちらかといえばそう思う」の累計値で見ると、男女ともに7割を超える項目は、ポジティブ要素では「子供との良い関係を築くことができる」、ネガティブ要素では「仕事の仲間、周囲に迷惑をかける」「収入が減り不安な状態になる」。
- 「復帰後に自分の仕事・ポジションがない」「復帰後のスキル・経験に同僚との差が出る」は男女差が大きく、女性の方が10%ポイント以上高い。

男性の育児休業取得率が低い理由	20-39歳	
	女性	男性
男性の方が昇進・昇給にマイナスの影響があるから	30.4%	25.6%
男性の方が上司や同僚の支援を受けにくいから	28.7%	21.8%
男性の方が家計を支える責任があるから	28.9%	30.1%
女性の方が給与が低い場合が多いから	23.1%	12.6%

調査結果のポイント

◆1日の時間の使い方 有職者におけるテレワークの日・テレワーク以外の日の比較

1 有職者の「仕事のある1日」における時間の使い方を、テレワークの有無により比較すると、**テレワークの日の方が「仕事時間」は、女性は22分、男性は36分短い。**

2 また、男性では、テレワークの日の方が「家事・育児時間」が**22分長い**。女性の方が家事・育児時間が長い傾向は変わらないが、**テレワークの日の方がその差が小さい。**

3 男女ともにテレワークの日の方が「自分のことに使う時間」が**19分長い**。また、男性では「家族と遊んだり、くつろいだりする時間」も**11分長い**。

有職者全体 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワークの日	差異 (②-①)
仕事時間	女性	6時間47分	6時間25分	-22分
	男性	8時間23分	7時間47分	-36分
家事・育児時間	女性	2時間09分	2時間10分	+1分
	男性	0時間49分	1時間11分	+22分
家族と遊んだり くつろいだりする時間	女性	1時間20分	1時間23分	+3分
	男性	1時間11分	1時間22分	+11分
自分のことに 使う時間	女性	2時間16分	2時間35分	+19分
	男性	2時間15分	2時間34分	+19分

※10分以上増減のあるセルに色掛け、黄色が+10分以上、グレーが-10分以上

◆1日の時間の使い方 有配偶男性におけるテレワークの日・テレワーク以外の日の比較

1 「20-39歳/フルタイム長時間勤務」の男性では、テレワークの日の方が「仕事時間」が**1時間15分短い**。また40-69歳男性でも1時間7分短い。

2 一方、「20-39歳/フルタイム長時間勤務」の男性では、テレワークの日の方が「家事・育児時間」が、**40分長い**。また、40-69歳男性でも34分長い。

3 正規雇用労働者の男性を年代別で比較すると、**テレワーク有無に限らず、20-39歳の方が「仕事時間」が長く、かつ「家事・育児時間」も20-39歳の方が長い。**

有配偶・ 正規雇用労働者の男性 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワーク の日	差異 (②-①)
仕事時間	20-39歳	9時間05分	8時間15分	-50分
	40-69歳	8時間47分	8時間11分	-36分
家事・育児 時間	20-39歳	1時間26分	1時間54分	+28分
	40-69歳	0時間43分	1時間06分	+23分
家族と遊んだり、 くつろいだりする時間	20-39歳	1時間21分	1時間36分	+15分
	40-69歳	1時間22分	1時間35分	+13分
自分のことに 使う時間	20-39歳	1時間23分	1時間42分	+19分
	40-69歳	1時間49分	2時間17分	+28分

有配偶・フルタイム/ 長時間労働の男性 仕事のある1日 時間の使い方		①テレワーク 以外の日	②テレワーク の日	差異 (②-①)
仕事時間	20-39歳	9時間44分	8時間29分	-1時間15分
	40-69歳	9時間35分	8時間28分	-1時間7分
家事・育児 時間	20-39歳	1時間15分	1時間55分	+40分
	40-69歳	0時間45分	1時間19分	+34分
家族と遊んだり、 くつろいだりする時間	20-39歳	1時間01分	1時間22分	+21分
	40-69歳	1時間16分	1時間28分	+12分
自分のことに 使う時間	20-39歳	1時間14分	1時間31分	+17分
	40-69歳	1時間35分	1時間56分	+21分

調査結果のポイント

◆生活の中の時間 増減希望

- 1 子供がいる20-39歳において、男性では「**仕事時間を減らしたい**」が34%、「**家事・育児時間を増やしたい**」が28%と高い。一方女性では「**仕事時間**」は増加・減少希望に分かれる。
- 2 子供がいる40-69歳において、男性では「**家事・育児時間を増やしたい**」は14%と、下の年代に比べ低い。女性では「**仕事時間を増やしたい**」が23%と、減少希望を上回る。
- 3 「**家族とくつろぐ**」「**自分のことに使う**」は増加希望が大きく上回るが、特に若い年代で顕著。特に女性においては、「**自分のことに使う時間を増やしたい**」が5割を超える。

20-39歳・子供有り		減らしたい	増やしたい	40-69歳・子供有り		減らしたい	増やしたい
仕事時間	女性	23.2%	28.6%	仕事時間	女性	12.7%	22.5%
	男性	34.1%	16.6%		家事・育児時間	女性	20.2%
家事・育児時間	女性	33.5%	14.4%	家事・育児時間		男性	7.6%
	男性	14.1%	27.7%		家族と遊んだり、くつろいだりする時間	女性	2.1%
家族と遊んだり、くつろいだりする時間	女性	5.0%	44.1%	家族と遊んだり、くつろいだりする時間		男性	3.4%
	男性	6.0%	42.2%		自分のことに使う時間	女性	2.6%
自分のことに使う時間	女性	4.2%	51.3%	自分のことに使う時間		男性	3.8%
	男性	7.3%	44.4%				

※増減で10%ポイント以上差がある（高い項目に色掛け）

◆家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

- 1 利用経験が男女ともに2割を超える項目は、「**市販のおかず購入**」「**フードデリバリー・出前利用**」のみ。女性のみ2割を超える項目は「**ネットスーパー・食材宅配**」。
- 2 上記以外の項目で、「**利用経験有+今後利用してみたい**」の計が6割を超える項目は、女性における「**時短家電の導入**」「**部分的なハウスクリーニングの利用**」。
- 3 年代別では、男女ともに若いほど利用意向の高いサービスが多い。

- 家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向について、「利用したことがある」が2割を超えるものは、女性では「市販のおかず購入」57.4%、「フードデリバリー・出前利用」29.8%、「ネットスーパー・食材宅配サービス利用」22.2%。男性では「市販のおかず購入」44.3%、「フードデリバリー・出前利用」23.2%。
- 「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値で見ると、年代別では、男女ともに若いほど「料理代行」「フードデリバリー・出前利用」「子供の送迎の外部委託」「キッズ・ベビーシッターの利用」などが高い。
- また20～30代で、「時短家電の導入」がやや高い。上の年代になるほど高い項目はないが、女性では20代と50代以上、男性では20代と60代で「高齢者支援などヘルパーの利用」がやや高い。

・家事・育児等に関する外部サービスの利用経験・意向

（上が「利用したことがある」数値、(カッコ内)が「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値）

※選択肢は抜粋
※「利用したことがある+利用してみたいと思う」の累計値で男女で10%ポイント程度差がある（高い）項目に色掛け

	女性	男性
市販のおかず購入	57.4% (79.4%)	44.3% (69.5%)
フードデリバリー・出前利用	29.8% (62.3%)	23.2% (53.1%)
ネットスーパー・食材宅配サービス利用	22.2% (57.2%)	15.9% (47.5%)
時短家電の導入	15.0% (60.2%)	12.4% (49.2%)
部分的なハウスクリーニングの利用	13.3% (60.4%)	11.3% (47.0%)

調査結果のポイント

◆自分の家事・育児スキル(能力)と配偶者の実施する家事・育児への満足度

- 家事に関する自分のスキルへの評価について、20～30代では男女同程度、40代以上では**女性が上回る**。配偶者の家事への満足度は**全ての年代で女性の方が低い**が、若いほど差は小さい。
- 育児に関する自分のスキルへの評価について、30代以上では女性が上回るが、家事よりその差は小さい。配偶者の育児への満足度は、**家事同様に全ての年代で女性の方が満足度が低い**。
- 年代における自分のスキルへの評価の差異は、**男性では家事・育児ともに若い年代ほど高い傾向にあり、20代で最も高い**。

家事(配偶者と同居している人)		【自分】 十分ある+ どちらかとい えればある 計	【配偶者】 とても満足+ まあ満足 計
20代	女性	60.4%	70.4%
	男性	65.0%	79.8%
30代	女性	62.1%	59.1%
	男性	60.6%	80.9%
40代	女性	58.8%	52.3%
	男性	51.8%	81.2%
50代	女性	64.7%	49.3%
	男性	49.3%	85.0%
60代	女性	75.0%	55.0%
	男性	52.5%	88.0%

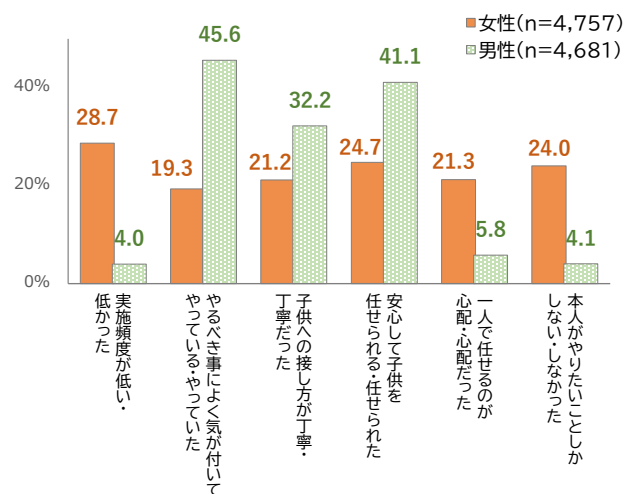
育児(小学生以下の 子供と同居している人)		【自分】 十分ある+ どちらかとい えればある 計	【配偶者】 とても満足+ まあ満足 計
20代	女性	60.6%	64.3%
	男性	63.5%	88.1%
30代	女性	60.5%	60.5%
	男性	55.2%	85.0%
40代	女性	57.1%	54.6%
	男性	51.4%	84.9%
50代	女性	58.6%	50.0%
	男性	46.7%	87.6%

◆配偶者の実施する家事・育児についての考え

- 配偶者の家事についての考えでは、女性の方が「**実施頻度が低い**」「**本人がやりたいことしかない**」が高く、男性の方が「**やるべきことによく気が付いてやっている**」「**丁寧**」が高い。
- 配偶者の育児について、女性の方が「**実施頻度が低い**」「**本人がやりたいことしかない**」「**一人で任せるのが心配**」が高く、男性の方が「**やるべきことによく気が付いてやっている**」「**子供への接し方が丁寧**」「**安心して子供を任せられる**」が高い。
- 家事よりも、「**配偶者の育児についての考え**」の方が、男女差が大きい。

- 配偶者の実施する家事についての考えを、配偶者と同居している人で見ると、女性では「実施頻度が低い」29.8%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかない」29.2%が続き、男性よりも10%ポイント以上高い。一方男性は、「やるべき事によく気が付いてやっている」37.8%が最も高く、次に「丁寧にやっている」30.1%と、女性よりも10%ポイント以上高い。
- 配偶者の実施する育児についての考えを、配偶者と同居している、子供がいる・いたことのある人で見ると、女性では「実施頻度が低い・低かった」28.7%が最も高く、次に「本人がやりたいことしかない・しなかった」24.0%が続き、この2項目は男性よりも20～25%ポイント程度高い。また、「一人で任せるのが心配・心配だった」21.3%も男性より15%ポイント以上高い。男性では「やるべき事によく気が付いてやっている・やっていた」45.6%が最も高く、次に「安心して子供を任せられる・任せられた」41.1%、「子供への接し方が丁寧・丁寧だった」32.2%と、いずれも女性より10%ポイント以上高い。

・配偶者の実施する育児についてどう感じるか ※選択肢は抜粋
(子供がいる・いたことのある、現在配偶者と同居している人)



調査結果のポイント

◆ストレスや責任などについての考え方

- 1 仕事のストレスが大きいと感じる割合は、**20-30代では男女ともに6割**。40-50代では、**男性の方がストレスが大きい**。60代では男女ともに4割で、最もストレスが小さい。
- 2 家事・育児のストレスが大きいと感じる割合は、**全ての年代で女性の方が高いが**、上の年代になるほど男女差が大きい。
- 3 家計を支える責任は、男性では全ての年代で75~80%程度。女性では**若い年代ほど高いが、20代でも45%程度であり、男女差が大きい**。

※ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載

ストレスや責任などについての考え方（自分）	20代		30代		40代		50代		60代	
	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性
私は仕事のストレスが大きい ※有職者	58.9%	56.9%	61.4%	62.8%	54.4%	64.7%	51.3%	60.5%	40.4%	43.8%
私は家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人	62.6%	50.0%	67.5%	48.6%	60.1%	42.3%	67.3%	37.5%		
私には家計を支える責任がある ※有配偶	45.0%	73.3%	41.1%	75.7%	38.1%	76.9	33.5%	79.6%	29.6%	80.4%

※家事・育児のストレスについて、60代は対象者が少ないため省略。

◆自分と配偶者に対するストレスや責任などについての考え方

- 1 仕事のストレスは、**男女ともに自分のストレスが大きい**と考える割合と、**配偶者が考えるストレスについて10%ポイント以上の差はなく**、どちらの年代でも同様の傾向。
- 2 家事・育児のストレスは、**男性が自分のストレスが大きいと考える割合と、女性が配偶者のストレスが大きいと考える割合**において、どちらの年代でも10%ポイント以上差がある。
- 3 家計を支える責任は、男女・どちらの年代でも、**自分に責任があると考える割合・配偶者に責任があると考える割合について大きな差はない**。

ストレスや責任などについての考え方	20-39歳				40-69歳			
	女性（自分）	男性から見た配偶者	男性（自分）	女性から見た配偶者	女性（自分）	男性から見た配偶者	男性（自分）	女性から見た配偶者
仕事のストレスが大きい ※有職者	60.2%	57.0%	60.4%	67.2%	50.5%	52.4%	58.1%	59.9%
家事・育児のストレスが大きい ※配偶者・小学生以下の子供と同居している人	66.6%	62.7%	48.8%	36.9%	60.6%	58.2%	41.1%	29.2%
家計を支える責任がある ※有配偶	41.9%	47.6%	75.2%	79.1%	33.8%	35.7%	79.0%	81.1%

※ストレスが大きい/責任があるについて「そう思う」+「どちらかといえばそう思う」の累計値を掲載